



水車で挽いた川崎産のそばを提供している

食とエネルギー100%自給へ

自然守るミニ水力や薪ストーブ

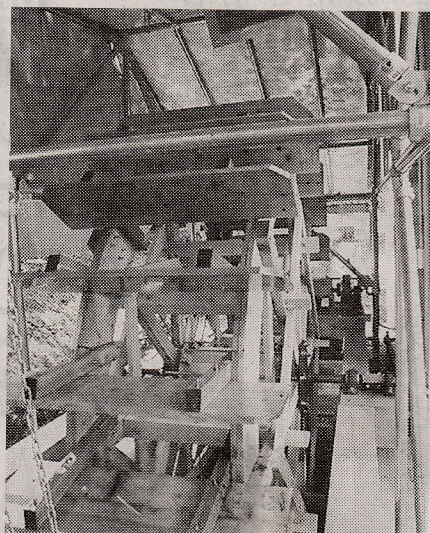
宮城・川崎町のとりくみ

関西電力が七月二九日に大規模な陸上風力発電建設を白紙撤回した、宮城県柴田郡川崎町。この川崎町には、「一〇〇年後には食とエネルギーの一〇〇%自給」を掲げて、小水力発電所の建設を進めているNPO法人「川崎町の資源をいかす会」(会員約二〇〇人)がある。

住民たちでつくる川崎町は大きなマイナスイメージがあること、そのような社会二〇〇一年に設立され、東日本大震災をへて、環境に負荷をかけない自然エネルギーの活用を力を入れていく。同会は、これまでとてくんできた講演会や研究会から、便利で快適な生活をもたらした大量生産、大量消費に

「二水力発電の会」は、これまで町内に二つの小水力発電所をつくってきた。そのなかの一つ、「ミニ水力発電の会」は、これまで町内に二つの小水力発電所をつくってきた。そのなかの一つ、「ミニ水力発電の会」は、これまで町内に二つの小水力発電所をつくってきた。

粉挽き水車兼用の第二小水力発電所(宮城県川崎町)



電は農業用水路を利用したものが、それは川崎町では稲作が盛んであることを物語っている。二〇一三年には同町大字前川・川崎町森林組合付近の蟹沢用水路に、第一号小水力発電所である「川崎町北原発電所」(出力二七〇ワット)を建設した。この小水力が発電する電力で近隣施設の防犯灯をとし、年末年始には町の風物詩となるイルミネーションを点灯している。

二〇一九年にはその隣に、第二号小水力発電所「川崎町北原第二発電所」も目的にしていた。

「ミニ水力発電の会」は現在、砂防堰堤(砂防ダム)の水を利用して数十ワットの小水力発電所を建設する(売電するため)事業に向けて調査を開始している。ただし、この規模では事業費が少なくとも三〇〇〇万〜四〇〇〇万円かかるため、町からのバックアップが不可欠だ。

再エネビジネスにない循環もう一つの部会である「薪ストーブの会」は、里山の環境保全を目的に広葉樹の皆伐をおこなっている。

日本人は昔から薪や炭をエネルギー源として使ってきたが、高度経済成長期から石油などの化石燃料が中心になり、山に

長周新聞

長周新聞社

下関市田中町10番2号
電話 083(222)9377(代表)
FAX 083(222)9399
メールアドレス
info@chosyu-journal.jp
振込口座 01540-0-11658
週3回刊 月ぎめ 1500円
1部120円 郵送料1ヵ月550円